

# Life Style

## 第2節 新しいライフスタイルを求めて

# 友達、町内、ボランティア つきあいは他人の為ならず



老若男女を問わず大事な友人とのつきあい

NHKの調査によると、平日の交際時間はここ5年間で少し長くなり、平均40分。70歳以上のお年寄りや主婦は、1時間を超える。

また、総理府の調査では「友人や知人と会合、雑談しているとき」に充実感を感じる人は、53年18%から57年21%、61年28%と増加しており、友人とのつきあいは、家族・仕事の次に心を満たす要素となっている。

「友人から誘われたらできるだけ都合をつける」という人は市民の89%、性別や年齢に関わりなく、友人とのつきあいを大切にしていることがうかがえる。

「交際」に対して積極的なのは、女性の方。勤め先や学校以外にも親しい友人がたくさんいるし、年の離れた人ともよくつきあい、知らない人の集まりでもすぐ友達をつくれるという具合。男性のつきあいが仕事中心であるのに対し、女性はさまざまな機会を通し、友人のネットワーク

### 市民データ

おもしろ	市民データ
友人にプレゼントをするのが好きな人	36%
友人や知人を家に呼んでホームパーティーをよく開くのは全体で	27%
営業系サラリーマンは仕事柄か、人を呼ぶ機会も多いようで	40%
主婦も負けじ、昔は井戸端会議と言っていました	38%
親戚とのつきあいは多いほうだ	51%
町内会の行事によく参加する	26%
外国人に話しかけられたら困る	58%

1クを広げているようだ。

地域活動やボランティアの中心は40代の女性

「住」の項で見たように、定住志向をもった市民が多いことを反映してか、近所づきあいはかなり活発のようだ。

ほとんどの人（94%）が、隣り近所の人と道で会えばいつもあいさつをするし、近所に家族

ぐるみでつきあっている親しい家がある家庭も、2軒に1軒と多い。一方で、どうも近所づきあいはわずらわしい、と感じている人も28%ほどいる。また、長く住んでいればそれだけ地域とのつながりが出てくるわけで、当然のことながら、居住年数が長いほど近所づきあいも盛んになる。

町内会によく参加する人は4分の1、40代以降の女性に多い。ボランティア活動に積極的なのも女性で、OLや、子育てが一段落した40、50代の女性が特に目立つ。

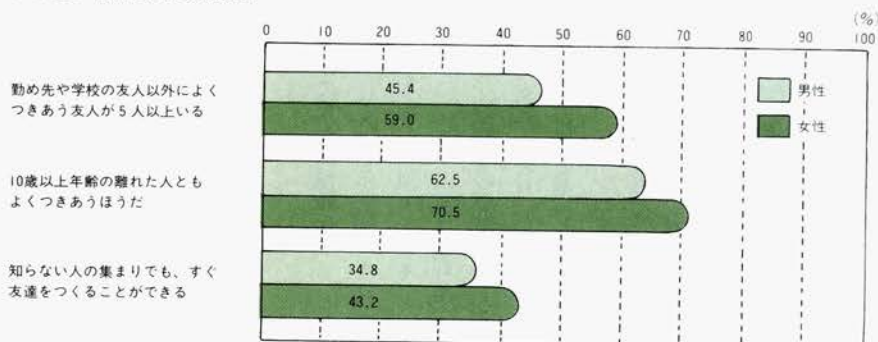
こういった地域活動への意欲は、横浜に住み続けたいかどうか、勤務地が住んでいる所に近いかどうか、の二つに影響をうけているようである。住み続けようと思えば地域のことが気になるし、遠くへ通っているとつい地域のことには目が向かない、ということなのかもしれない。

市民レベルの国際交流も盛ん

市民の2人に1人は、横浜にエキゾチックな

# Life Style

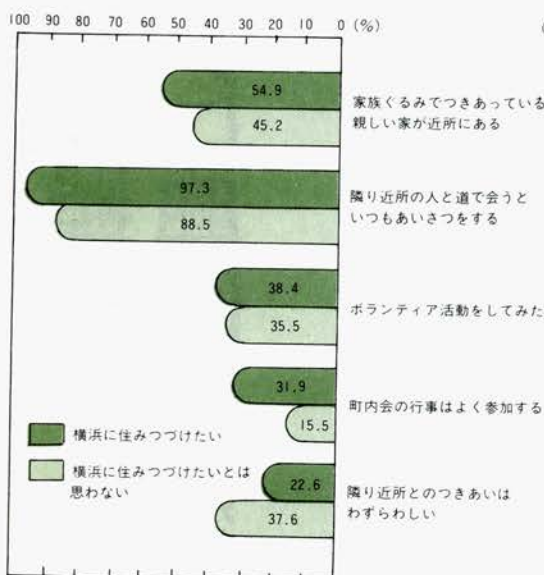
## ■女性の方が積極的な交際態度



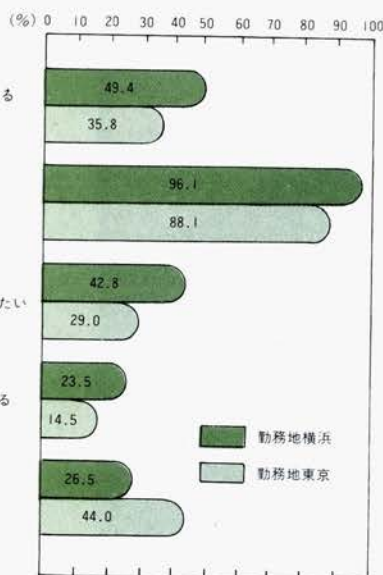
横浜市「市民の日常生活に関する調査」(昭和62年度)

都市というイメージをもっているが、実際、外国人市民は約2万5千人で、56年から61年の間に17%も増えた。これは、この間の常住人口の伸び9%を大きく上回っている。全国平均と比べ

## ■住み続けようと思うと地域のことが気になる



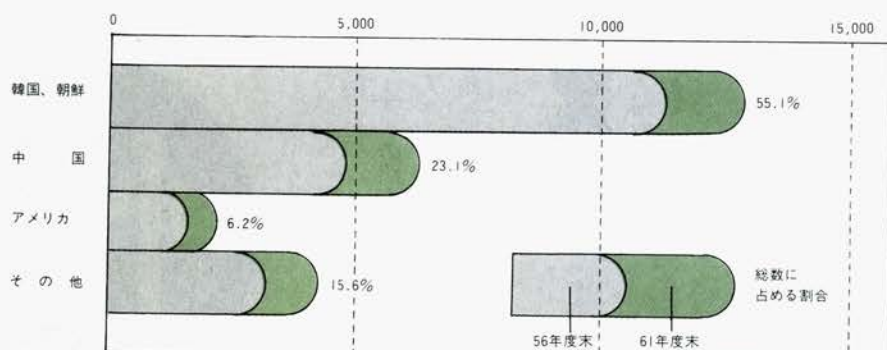
## ■遠くへ通っているとつい地域のことに目が向かない



横浜市「市民の日常生活に関する調査」(昭和62年度)

ると、中国、アメリカ国籍の人の割合が高い。「外国人の友達がいる」市民は13%。営業関係の仕事の人、学生、OLなど、外国人の人と接する機会があると思われる人達が多い。

## ■5年間で16.6%も増えた外国人市民



横浜市総務局調べ

横浜市海外交流協会の調べによると、国際交流を行っている市民グループは増え続けている。「国際文化都市」ヨコハマの国際交流は、市民レベルでもますます盛んになるだろう。